滝上町外国語指導助手

Ｊｏｒｄｙ’ｓ コーナー

「イースター祭り」

わたしが小さい頃、家族や親せきがたくさん集まって祝うイースターはいつもすごく楽しいものでした。両親と妹、おじやおば、いとこたちが一斉に祖父母の家に集まります。そこで、イースターの前夜にはタマゴを明るい色に染めます。それは、すごく楽しいけど、様々な色で、はちゃめちゃになっちゃうのが、わたしは本当に大好きでした。翌朝のイースター当日に、わたしたちはチョコレートやキャンディーのようなささやかなプレゼントをもらいます。イースターのキャンディーってすっごくおいしいの！わたしが一番好きだったのはチョコの塊とたまご型のチョコレートクリーム。朝食の後、両親はタマゴを外に隠して、子どもたちはみんな庭に出てそのタマゴを探します。

イースターはキリスト教の祝日になってしまいましたが、もともとは春を祝うお祭りでした。気候がだんだん暖かくなってきて花が咲いて、冬が終わってみんな幸せな気分になります。花・うさぎ・タマゴがお祭りのメインテーマ、色とりどりで愉快な春が始まるのにぴったりのモチーフです。

滝上の子どもたちにも、わたしが子どもの頃楽しんだイースターを経験してほしくて、昨年、滝上で多くの子どもたちがタマゴを染めて、ゲームやタマゴ探しをしました。他の町の英語指導助手もやって来てお手伝いしてくれました。滝上の子どもたちはイースターのアクティビティを楽しんでいて、とっても幸せそうにしていたから、今年も今からとっても楽しみにしています。

右の写真：昨年の５月に滝上町で実施した「Takinoue Easter Egg Hunt」の写真⇒

小栗ＥＹＥ

郷土館管理人小栗さんに収蔵品の紹介や、それらにまつわるエピソードなどを紹介していただきます！

「落雁（らくがん）の木型」

縦 27 ㎝、横 62 ㎝の大きな落雁の木型です。あたまからしっぽまで 45 ㎝もある大きな鯛が彫られています。

鱗の一つ一つ、尾鰭（おひれ）、胸鰭などの筋一本一本まで細かく丁寧に彫られています。そして大きな目。この木型で作られた落雁は、とても立派な鯛だったことでしょう。

落雁は、もち米、うるち米の粉に砂糖を加え、飴（あめ）を入れて練り、木型に入れて打ち出し、乾燥させて作られます。麦や豆、穀物の粉を用いることもあります。打ち菓子、干菓子の一種です。

大きな鯛は、松竹梅や鶴亀など、目出度い（めでたい）物を添えてお祝いの引き出物に用いられました。小さい鯛は、お膳（ぜん）の口取りに付けられたりしました。「おめでたい」名前と、赤い色が華やかで嬉ばれたのでしょう。

郷土館に寄贈された落雁の木型は、鯛の外にも、海老、鶴亀、松竹梅、菊、牡丹（ぼたん）、蛤（はまぐり）などがあります。やはり、お目出度い品々が好まれたのでしょう。お寺の紋章の入った木型もあります。報恩講の時など、たくさんの落雁が作られたそうです。

お菓子の少なかった時代には、砂糖が入っていて日持ちする、甘い落雁は子ども達に喜ばれたことでしょう。

↑郷土館に保存されている「落雁の木型」の写真